

新生銀グループ連携

個人向けオートリース参入



新生銀行グループは個人向けオートリース事業に参入する。アップラス（東京都千代田区）と昭和リース（東京都文京区）が連携し、11月から始める。アップラスがオートローンサービスを提供する2万4000社の自動車販売店で申し込むことができ、リースで新車を入手したい個人客のニーズに応える。1年以内に月間リース取扱高10億円を目指す。

リース期間は7年。タブレット端末などの画面でメーカー、車種、オプションを選択。選択ごとにリース料が明示されるため、月額のリース料が一目で分かる。

アップラスが個人客の与信管理を、昭和リースが物件管理や個人客とリース契約を結ぶ。個人客はアップラスを通じてリース料を払う仕組み。

タブレットで選択、料金明示

アップラスが事業主向けオートリースの債務保証を行っているが、新生銀行グループとして、個人向けオートリースを行うのは初めてという。融資といった自動車販売店向けのサービスも今後検討する。

新生銀行は2018年度までの3カ年の中期経営計画で、戦略的な取り組み分野の一つとしてグループでの中小企業・小規模事業者向けソリューションの強化を掲げている。既にベンダーリース事業を始めており、培ったグループ内融合のノウハウを個人客向けでも活用する。